

概要

1

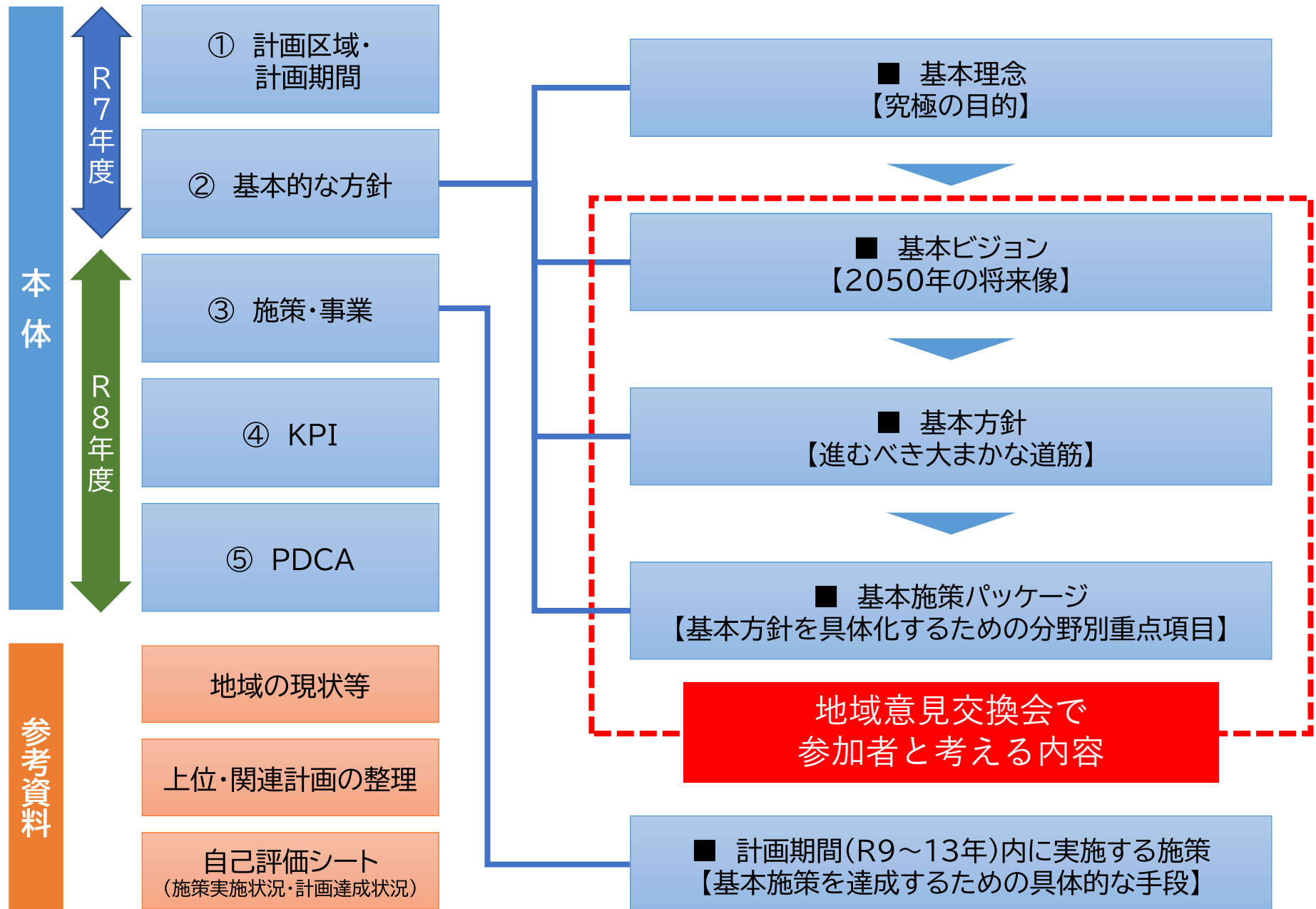
計画の改訂に向けては、「基本的な方針（案）」を示し、2月から4月にかけて地域別意見交換会を実施したうえで、次年度に具体的な施策やKPIなどの設定を行うこととしている。

そこで、意見交換会の進め方や今後のスケジュールについて確認を行う。

※地域交通の目指す姿及び基本方針に関する第4回地域公共交通会議での意見と事務局の考え方は「資料1-2」のとおり

地域別意見交換会の実施スケジュール

日時	会場	対象
2月28日（土） 10時00分～12時00分	岡崎市福社会館 6階大ホール	甲山、美川、竜海、葵、城北中学校区在住の方
3月12日（木） 18時30分～20時30分	岡崎市西部地域交流センター	矢作、矢作北中学校区在住の方
3月17日（火） 18時30分～20時30分	岡崎市地域交流センター六ツ美分館	六ツ美、六ツ美北中学校区在住の方
3月24日（火） 18時30分～20時30分	岡崎市額田センター	河合、額田中学校区在住の方
4月8日（水） 18時30分～20時30分	岡崎市北部地域交流センター	常磐、新香山中、岩津中、北中学校区在住の方
4月14日（火） 18時30分～20時30分	岡崎市東部地域交流センター	東海中学校区在住の方
4月23日（木） 18時30分～20時30分	南部市民センター	南、福岡、竜南、翔南中学校区の方



計画区域

計画の対象区域は、岡崎市全域とします。

ただし、市民の生活圏や公共交通を利用しての移動範囲を考慮し、岡崎市周辺市町の交通ネットワークへの接続にも考慮をします。

計画期間

第7次岡崎市総合計画の目標年度である令和32年度（西暦2050年）を未来像としたうえで、岡崎市地域公共交通計画の計画期間は5年間（令和9年度～令和13年度）とします。

第7次岡崎市総合計画の将来都市像

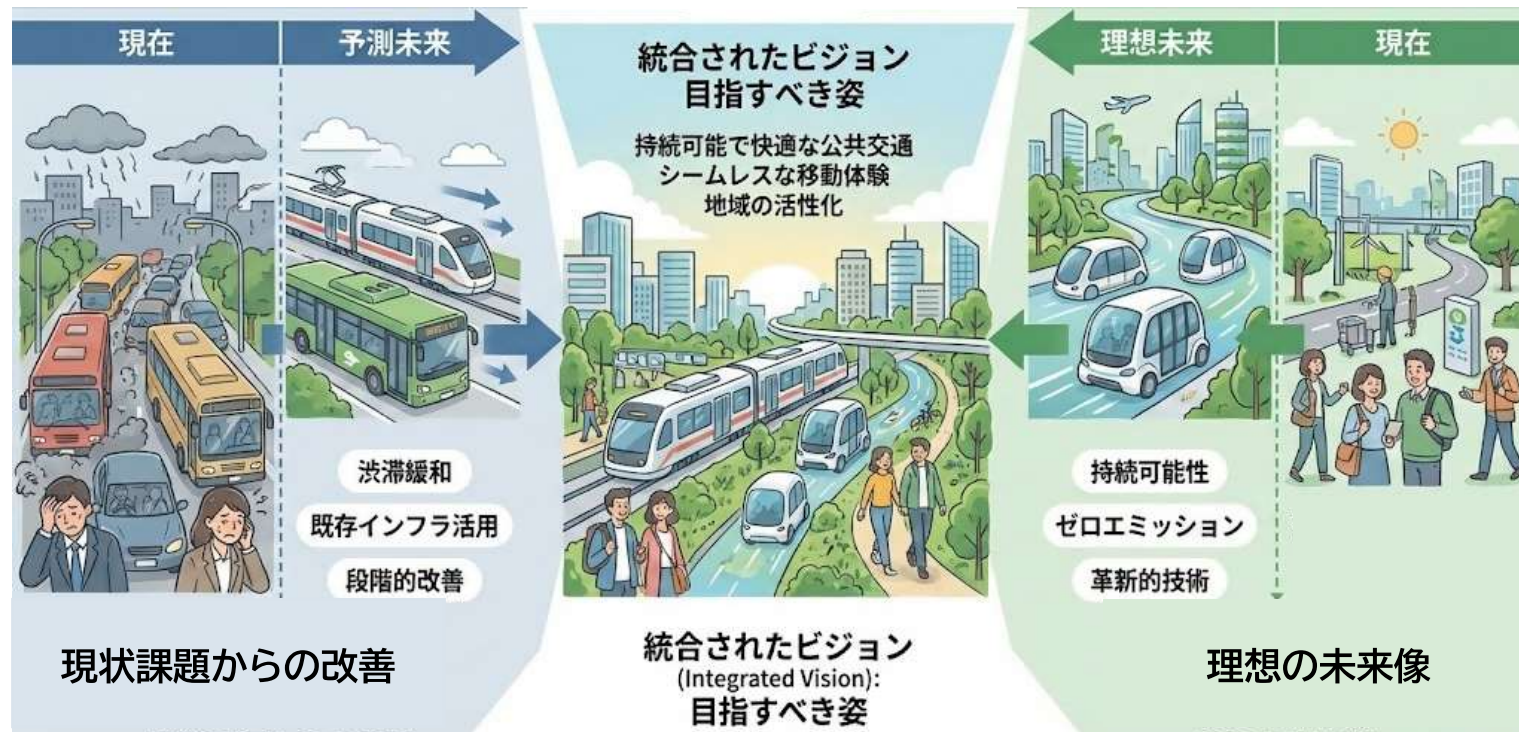
「一歩先の暮らしで三河を拓く 中枢・中核都市おかざき」

目標年度である令和32年度（西暦2050年）には、国内屈指の製造業拠点である三河地域において、人口規模を増加・維持する取組が効果を発揮し、行政・学研機能や更なる商業機能の集積、新技術のまちづくりへの活用を通じて、利便性や先進性の高い暮らしが実現できる都市として三河地域の発展を牽引する役割を担っていることを目指します。

現状	課題
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 総合計画・都市計画との関連性の強化を図る必要性がある ◆ 新技術(DX・GX等)が進展している ◆ 多様なライフスタイルやライフステージの変化への対応が必要である ◆ カーボンニュートラルの実現を目指した取組が求められている ◆ 地域コミュニティの希薄化が進む懸念がある 	<p>➡ まちづくりの課題</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆ ニーズ(運行頻度・サービス提供時間)とのギャップが生じている ◆ 定時性の確保(渋滞対策)が求められている ◆ 交通空白の解消が必要な地域がある ◆ あと少し・最初の一步・最後の一步の移動に支援が必要な住民がいる 	<p>➡ 質(サービス)の課題</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆ バス路線を維持するための公的資金が上昇傾向にある 	<p>➡ 財政の課題</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 利用者が減少(人口減少・少子高齢化)している ◆ 運転手など公共交通の担い手不足が生じている 	<p>➡ 人的な課題</p>

岡崎市の公共交通に期待される役割は、市民の日常生活を支えることに留まらず、都市構造や経済、社会、環境など、様々な分野に貢献することで、多くの人に選んでもらえる魅力的なまちづくりに貢献することです。

今回の岡崎市地域公共交通計画では、第7次岡崎市総合計画の将来都市像である「一步先の暮らしで三河を拓く 中枢・中核都市おかざき」の実現に寄与することを目指し、総合計画の目標年度である令和32年度（西暦2050年）を未来像として設定し、その実現に貢献するための公共交通の未来像を描き、そこへたどり着くための道筋となる計画の策定を進めます。



基本理念（案）

みんなで『暮らし』を支え、『選ばれるまち』を創る。魅力ある未来の岡崎へつなぐ公共交通。

1 市民の「暮らしを支える」

公共交通の第一の使命は、岡崎市民の生活に寄り添い、将来にわたって誰もが安心して生活できる土台を作る（暮らしを支える）ことです。

2 選ばれるまちを創る

公共交通のもう一つの大切な役割は、岡崎市の都市構造や経済、社会、環境など、様々な分野に貢献することで、多くの人に選んでもらえる魅力的なまちにすることです。

「暮らしを支える」という土台と、「選ばれるまちを創る」という成長への力を持ち合わせた公共交通を、岡崎市・交通事業者・地域住民が連携し実現することで、岡崎市は現在も未来も、ずっと住みやすく、誇りを持てるまちであり続けることができます。

1.公助による「土台」の保証

➤ 幹・枝（都市交通）：品質保証。

ゾーン制運賃等の適正な受益者負担と公費により、高く安定したサービスレベルを維持する。

➤ 葉（生活支援交通）：性能保証。

交通空白（バス停300m圏外）を埋めるため、AIデマンドや公共ライドシェアを駆使し、「移動手段があること」を徹底する。

2.共助による「安心」の上乗せ

➤ あと少しの支援

行政の「性能保証」ではカバーしきれない介助や相乗りなど、住民同士の絆で利便性を最大化する。

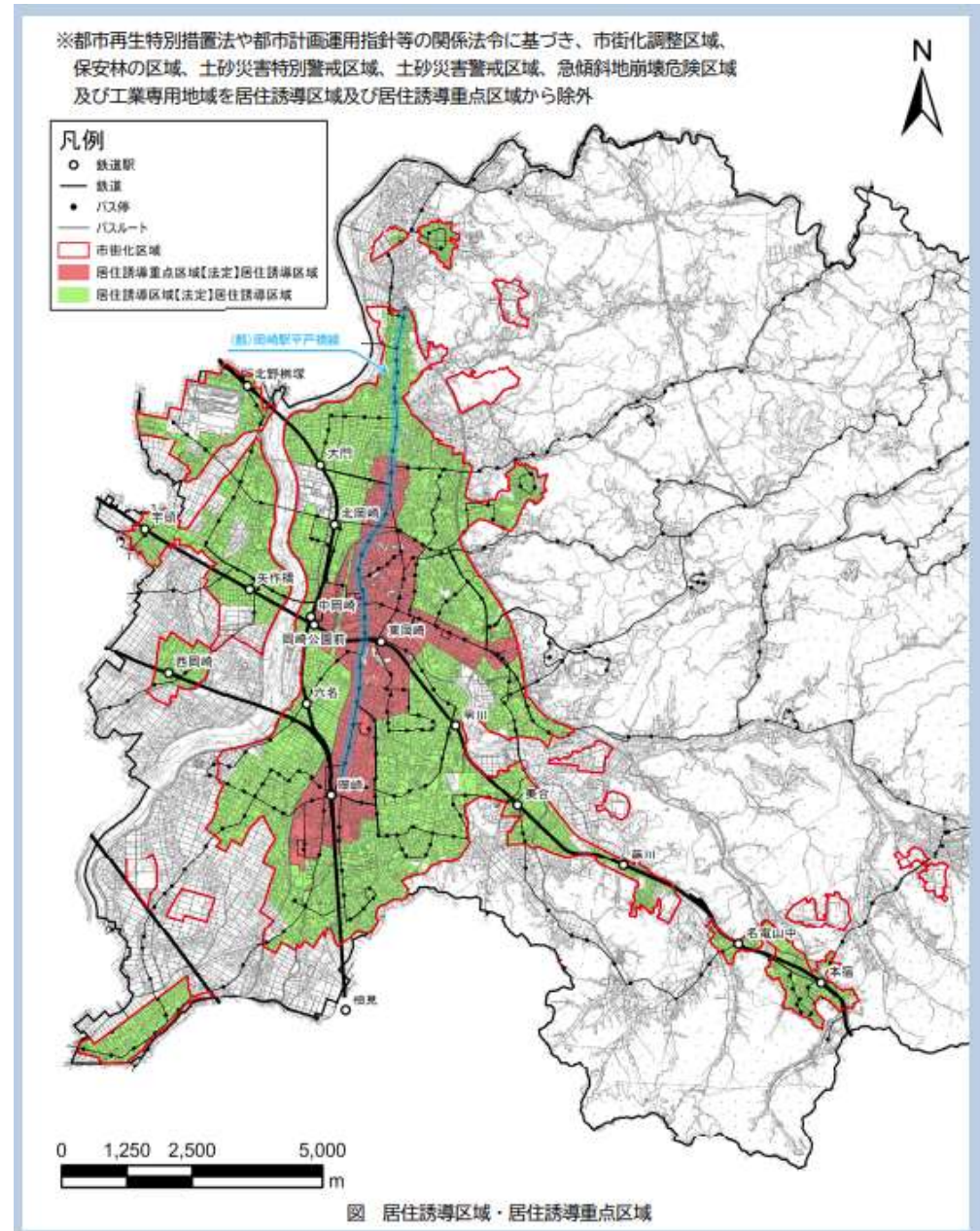
行政は各種調整支援、財政面や車両提供などで側面支援する。

3.持続可能な「仕組み」の更新

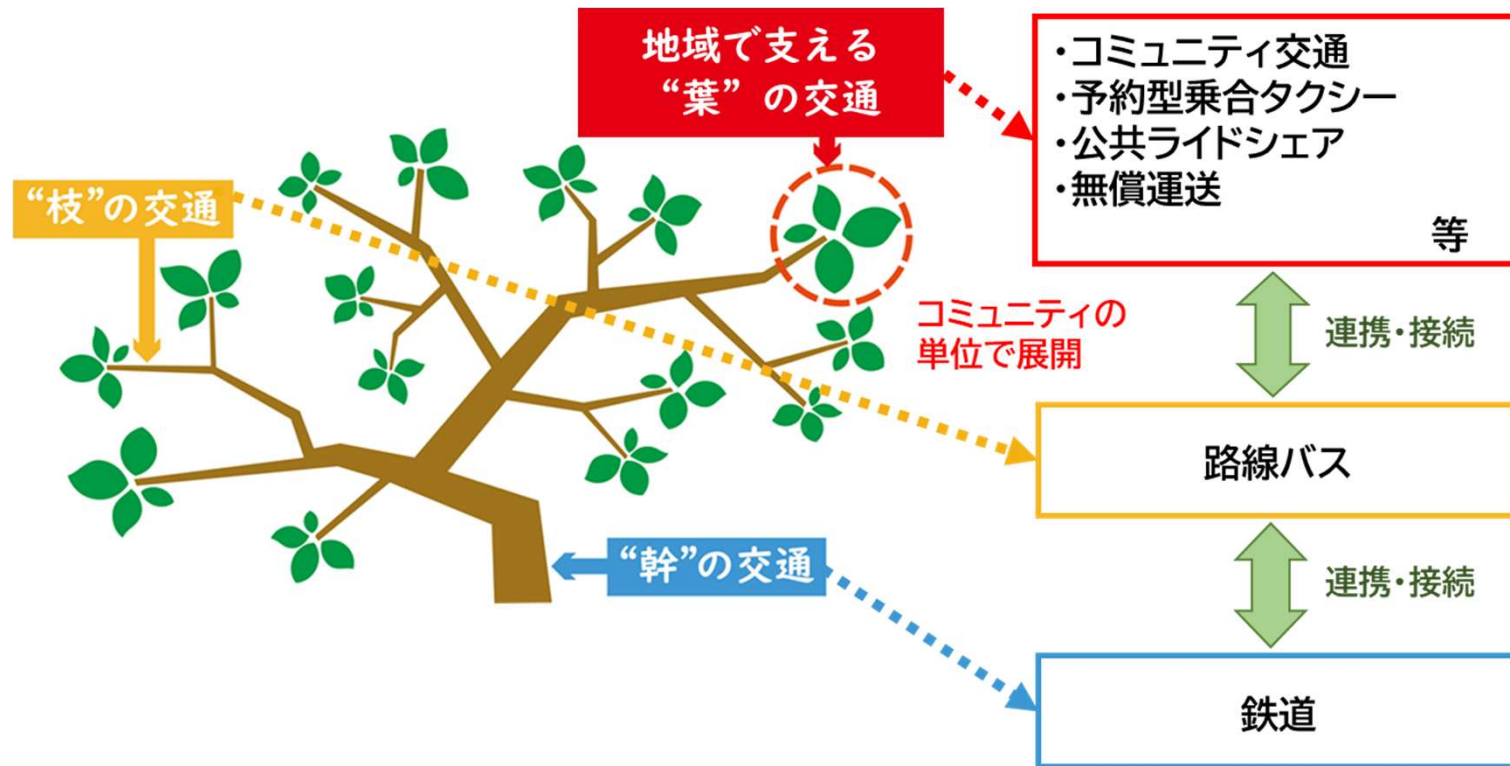
➤ 未来への投資

外国人運転手の受け入れや自動運転、データ分析による路線再編を行うと共に、カーボンニュートラル実現に向け、移動手段のグリーン化を進めることで時代の変化に合わせて樹木（交通網）全体を健全に保つ。

中心部	居住誘導重点区域・居住誘導区域
郊外部	上記以外の市街化区域・調整区域
中山間部	山村振興法で「振興山村」に位置付けられた地域（旧額田町）



ネットワークの階層	幹・太い枝 ＜都市基盤交通＞※まちの骨格	細い枝・葉 ＜生活支援交通＞※セーフティネット
対象地域	中心部・郊外部	中山間部及び中心部・郊外部の交通空白
求められる機能	速達性・大量性・定時性など	安定性・継続性・柔軟性

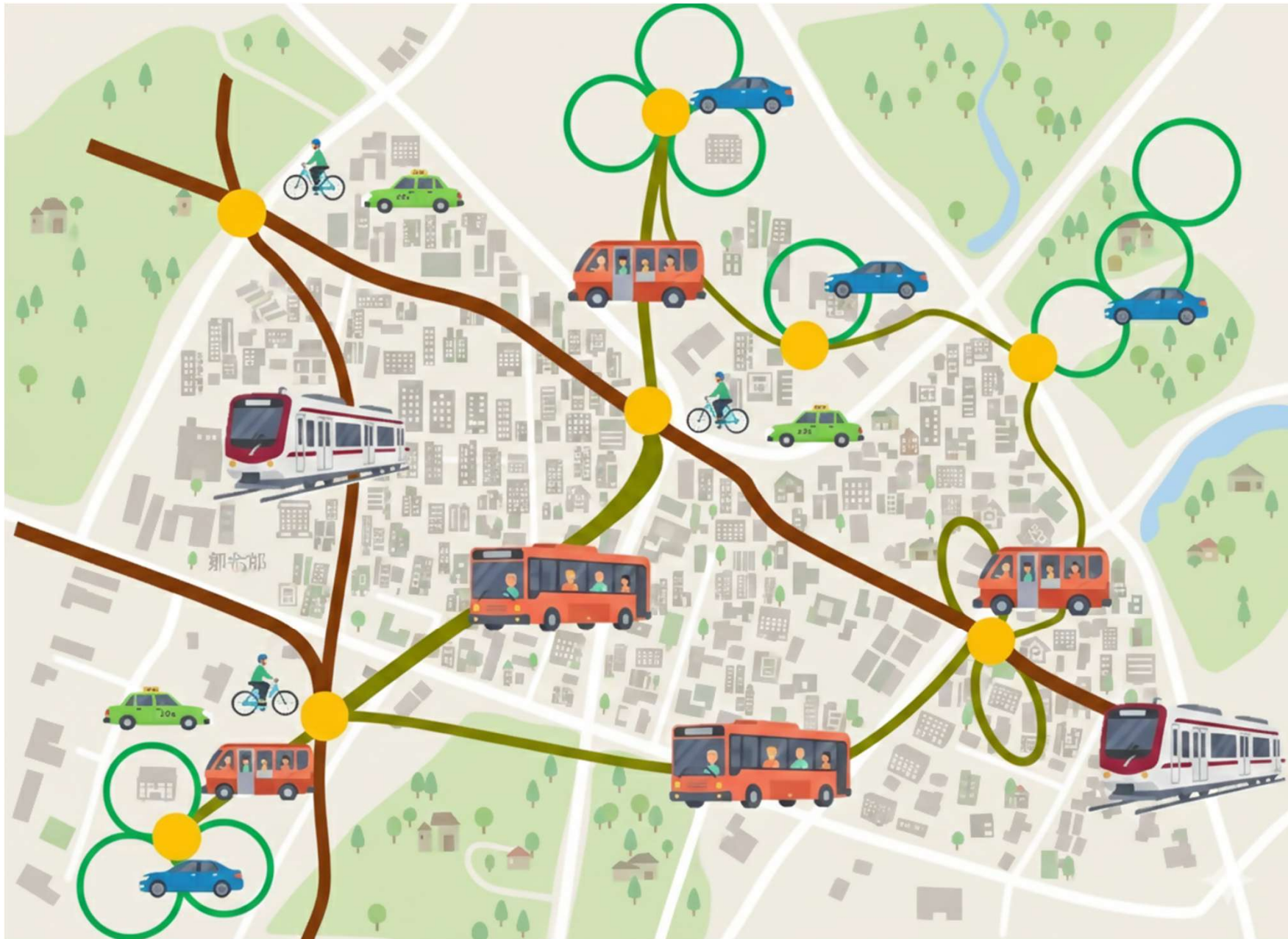


※タクシーはあらゆる場面において、利用者の多様なニーズにきめ細かく柔軟に応じることのできる公共交通として位置付けられる。

基本方針①②（土台）	幹線は便利に（品質）、空白地はゼロに（性能）。これらは「公助」で守る。
基本方針③（上乘せ）	セーフティネットを超えた「真の安心」は、地域の絆「共助」で実現し、その活動を行政は後押しする。
基本方針④（柱）	変化を恐れず、データと技術で「仕組み」をアップデートし続け、次世代に持続可能な公共交通ネットワークを繋ぐ。

① 公共交通軸と拠点の 充実・保証	② 「交通空白」における 移動手段の確保	③ あと少し・最初/最後の 一歩の移動の創出	④ 持続可能な公共交通 ネットワークの構築
品質保証 (サービス水準の強化)	性能保証 (生活に必要な移動の 確保)	アクセシビリティ (アクセス性・利便性)の 向上	持続性・基盤強化

対象	幹・太い枝	細い枝・葉	葉 (交通空白内外問わず)	幹・枝・葉
範囲	中心部・郊外部	中山間部及び 中心部・郊外部の交通空白	中心部・郊外部・中山間部	中心部・郊外部・中山間部
主体	公助(民間自助を含む)	公助(性能保証) 共助(柔軟性向上)	共助(共助を支える行政 支援)	自助・公助・共助の連携



基本方針① 公共交通軸と拠点の充実・保証

品質保証（サービス水準の強化）

まちの骨格となる路線・拠点において、品質保証（速達性や定時性などのサービス水準を政策的に強化）を図ることで、生活・交流の基盤として利便性の高い公共交通サービスの実現

【対象・範囲】

対象：都市基盤交通の役割を担う幹と太い枝

範囲：中心部・郊外部

【基本施策パッケージ】

① 基幹バス路線のサービス水準の強化

まちの「骨格」となる主要なバスルートにおいて、より多くの人をより確実に運ぶため、渋滞対策などによる定時性や速達性を高める取組。

② 交通結節点の機能高度化

鉄道駅や主要なバスターミナル（交通結節点）において、待合機能の強化や異なる交通手段同士のつながり（鉄道・バス・タクシー・自転車等の乗換機能）をスムーズにする取組。

基本方針① 公共交通軸と拠点の充実・保証

● 拠点の考え方

① 立地適正化計画における拠点

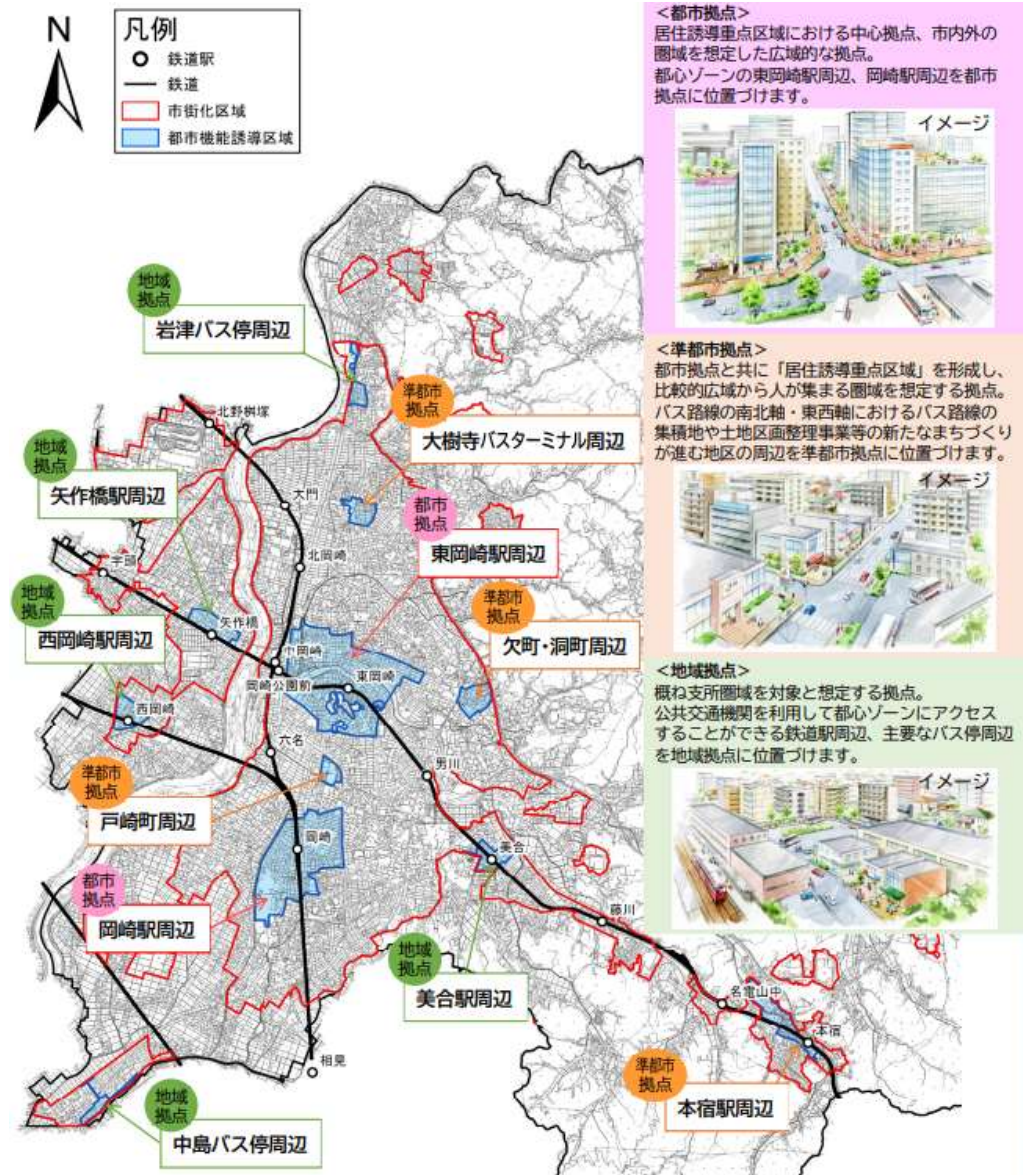
都市拠点	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 東岡崎駅周辺 ➤ 岡崎駅周辺
準都市拠点	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 大樹寺バスターミナル周辺 ➤ 欠町・洞町周辺 ➤ 戸崎町周辺 ➤ 本宿駅周辺
地域拠点	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 岩津バス停周辺 ➤ 矢作橋駅周辺 ➤ 西岡崎駅周辺 ➤ 美合駅周辺 ➤ 中島バス停周辺

② ①以外の乗換拠点

- 中岡崎駅・岡崎公園前駅
(愛知環状鉄道⇔名鉄名古屋本線)
- 大門駅
(愛知環状鉄道⇔名鉄バス)

● 軸の考え方

- ① 鉄道
- ② 上記の拠点を結ぶ主要バス路線



基本方針② 「交通空白」における移動手段の確保

性能保証（生活に必要な移動の確保）

公共交通機関を利用するのが著しく困難な地域における「暮らしに必要な少量移動サービス」の確保を図る

【対象・範囲】

対象：生活支援交通の役割を担う細い枝と葉

範囲：中山間部及び中心部・郊外部の交通空白

【基本施策パッケージ】

① 交通空白の解消と多様な移動手段の確保

鉄道駅やバス停の徒歩圏から外れた地域や昼間などの特定の時間帯にバスの運行がない「時間の空白」などの交通空白をコミュニティバスやAIデマンドなどの少量輸送等によって解消する取組や中山間部・郊外部と市中心部のアクセスを途切れさせないための取組。

② 地域主体の共助交通による移動性の柔軟性向上

交通空白において、公助の移動手段では不足する部分を地域住民が運転手を担う共助交通によって、運行頻度やサービス範囲を拡張する取組。

基本方針③ あと少し・最初/最後の一步の支援

アクセシビリティ(アクセス性・利便性)の向上

近距離移動(300m圏内)の満足度向上のために地域が実施する共助交通の導入支援を図る

【対象・範囲】

対象：葉(交通空白内外問わず)

範囲：中心部・郊外部・中山間部

【基本施策パッケージ】

① 暮らしを支える付加サービス

近距離移動が困難な住民などに対する地域住民による共助交通の導入に関する取組。

② 共助交通の組織化と行政支援

持続的な取組となるための「運営組織の法人化」などの推進や安全性の確保に対する取組。

基本方針② 「交通空白」における移動手段の確保

基本方針③ あと少し・最初/最後の一步の移動の支援

● 「交通空白」の考え方

A 空間的空白 **基本方針②**

- 朝晩(通勤・通学者)と日中(高齢者・妊婦・育児層など)では、移動方法や徒歩や自転車等での移動可能な範囲が異なる点や、移動目的が異なることなども考慮し設定

朝晩:鉄道・バスの徒歩圏(鉄道駅:800m、バス停300m圏内)から外れる区域

日中:バスの徒歩圏(バス停300m圏内)から外れる区域

B 時間的空白 **基本方針②**

- 公共交通での移動を希望する者が、恒常的に許容可能な時間内に公共交通を利用できない時間帯や地域
(例) 朝晩はバスが運行しているが日中の運行が無かったり、少なかったりする路線

夜間になると公共交通の運行がなくなる

C 質的空白(既存交通の上乗せ) **基本方針③**

- 地理的条件により、公共交通を利用しづらい地域
(例) 坂道がきつい地域

基本方針④ 持続可能な公共交通ネットワークの構築

持続性・基盤強化

将来にわたって誰もが安全で快適に移動ができる、持続可能な公共交通ネットワークの構築に向け、岡崎市の公共交通全体の構造改革と運営基盤の構築を推進

【対象・範囲】

対象：幹・枝・葉

範囲：中心部・郊外部・中山間部

【基本施策パッケージ】

① デジタル技術・新技術活用による公共交通ネットワークの再編

運行データの活用や自動運転バス導入によるバス路線の再編をはじめ、MaaSアプリの導入やデジタル機能を活用した支払い機能の導入、運行情報のオープンデータ化などによる利便性の向上を図る取組

② 公共交通の利用促進

「あるのは知っているが使わない」層に向けたモビリティ・マネジメント(意識啓発)や、「使い方が分からない」といった不安を払しょくするため」の公共交通を使いやすくする工夫(分かりやすい時刻表、共通運賃の設定、パークアンドライドの整備など)や乗り方教室を通じて、利用者の増加を図る取組

③ 公共交通の担い手と運営体制の強化

二種免許の取得支援、労働環境の改善、「岡崎モデル」による外国人のほか、女性やシニア層の活用などによる運転手確保及び他分野と共創による公共交通の担い手確保に関する取組

④ 人やまちにやさしい公共交通の推進

バリアフリー化だけでなく、誰にとっても心地よい交通環境を目指すこと。低床バスの導入、ベビーカーでの利用しやすさ、環境負荷の低い電気バス(EVバス)の導入など、人にも地球環境にも配慮した取組

【意見交換会の目的】

地域の公共交通の現状を共有し、将来の選択肢（目指す姿）を行政と地域住民が一緒に考える場

第一部	<p>岡崎市地域公共交通計画の改訂に関する説明</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 計画改訂の背景（現状や将来予測）と目的<ul style="list-style-type: none">・現在の公共交通を取り巻く現状（人口減少、運転手不足など）・なぜ今、新しい計画が必要なのか・現状分析と課題：データから見る利用状況や市民アンケートの結果➤ 計画の構成➤ 地域公共交通の基本的な方針に関する説明➤ 今後のスケジュール
第二部	<p>地域公共交通の目指す姿に関するグループワーク</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 学生・高齢者などをターゲットとして、地域での生活に必要な目的地や経由地など、移動ニーズの抽出。➤ 移動ニーズと現状の公共交通とのギャップの洗い出し。➤ ギャップを埋めるための解決策として「あるべき姿」の検討（アイデア出し）。➤ アイデアの「優先順位」や「実現性」、「効果」についての確認（まとめ）。

令和8年 2月～4月	地域別意見交換会
5月	令和8年度第1回岡崎市地域公共交通会議 <ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度予算の承認 ・地域別意見交換会の結果報告 ・基本的な方針の最終確認
	岡崎市地域公共交通計画改訂支援業務 事業者との契約締結
8月	令和8年度第2回岡崎市地域公共交通会議 <ul style="list-style-type: none"> ・施策（案）の提示 ・KPI、目標値（案）の提示
10月	令和8年度第3回岡崎市地域公共交通会議 <ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメント用の計画（案）の確認
11月	パブリックコメントの実施
12月	令和8年度第4回岡崎市地域公共交通会議 <ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントの結果報告
令和9年 2月	令和8年度第5回岡崎市地域公共交通会議 <ul style="list-style-type: none"> ・岡崎市地域公共交通計画の最終確認
3月	岡崎市地域公共交通計画の公表